



いづみ

No.42

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 12



《ウスレユク記憶ノタメノ石積》

渡辺 行夫

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 12 作者の言葉

2012 年夏、旭川で開かれた彫刻フェスタで制作した作品です。材質は、上部は黒御影石、下部土台は昔の旭川で使用されていた馬車道の敷石です。長年にわたって過去の間人たちの活動の痕跡を刻みながら、磨耗してきた表面は、無表情、無言でありながらも時代の流れを記録しています。用済みでそのまま廃棄されるにはあまりにも忍びなく感じ、作品にしました。(渡辺行夫)

タイトル：「ウスレユク記憶ノタメ
ノ石積」

設置場所：旭川市科学館

制作年：2012 年

素材：黒御影石ほか

サイズ：250×700×700 cm

連載 宮の森の四季 12

本郷新記念札幌彫刻美術館

お世話になりました

学芸員 樋泉 綾子

2011 年 4 月に本郷新記念札幌彫刻美術館に着任となり、あっというまに 1 年半以上が過ぎました。緑豊かで広々とした芸術の森から、住宅街にひっそりと佇む彫刻美術館へと移ってきて、はじめは戸惑うことも多かったのですが、芸術の森ではそれほど経験することのなかった来館者との直接の会話や、多くの作家の方々との交流を通じ、この小さくてアットホームな美術館に次第に愛着が湧いてきました。館長以下 5 人のスタッフで知恵を出し合いながら、どうすればより多くの方々に親しまれる魅力的な美術館をつくっていけるのか懸命に考え、自分なりに新たな挑戦ができた日々でもありました。

「市民の愛蔵彫刻展」では、お手伝いをさせていただくなかで、友の会のみなさんの熱意とチームワーク、そして彫刻への愛情を存分に感じましたし、多くの来場者が満足して帰っていかれる様子に、私も大いにヒントをいただくことができました。

私事ですが、このたび念願だった子どもを授かり、この 12 月から産休に入りました。職務を離れることに少しさみしさも感じますが、子育てを通じて新たな視点を心得、美術館の仕事に活かしていけたらと思っています。後任の田中千秋君も真面目な青年ですので、どうぞみなさまの応援をよろしくお願いいたします。またお目にかかれる日を楽しみにしております。



ロスコとくポートランドの壺と

佐藤友哉(札幌芸術の森美術館長)

10月にロンドンを本当にしばらくぶりに訪ねることができた。目当ては2000年にオープンしたテートモダンと、リニューアルした大英博物館、そしてロンドン西方のストーンヘンジを間近に見ることである。

ロンドン・オリンピックが終わった後なので幾分観光客も少ないだろうと思っていたが、相も変わらずロンドン是人でごった返していたというのが正直な印象だった。

ホーボーン通りのチャンセリーコートというホテルに投宿。しかし、ホテルに着いたその夜に、BBCのニュースがなにやらアメリカ抽象表現主義の画家、マーク・ロスコの作品について報道していて驚いた。

はじめはロスコのサインのようなものが映し出されていて、さすがに美術に関心の深い放送局だ、などと思っていたら、どうも何者かがテートモダンにあるロスコの作品に落書きを書いた、ということらしかった。そういえばロスコがあんな変なサインをするはずがない、と合点したが、考えたら今回の旅行の目的がテートモダンであり、当然そのロスコ・ルームを見ることでもあったと気づいて不安になってしまった。

ロスコ・ルームとは、ロスコがニューヨークのレストランのために描いた一連の作品を展示している部屋をいう。結局作品はレストランに飾られることにならなかったが、その一部の9点がテートモダンに収蔵され、一部屋にまとめて展示されているのだ。

旅程の関係で、その数日後にテートモダンを訪ねた。案の定、ロスコ・ルームは閉鎖。もちろんテートモダンの斬新な20世紀美術の展示を堪能したし、最上階のカフェからワインを飲みながらミレニアム・ブリ

ッジやセント・ポール寺院を眺めることができた。しかしお目当ての一つが残念ながらお預けになってしまったのだった。

美術作品や文化財を破壊、あるいは汚染すること、これを広くヴァンダリズムと称している。近年ではタリバンがアフガニスタンの巨大石仏を破壊して世界を震撼させたが、これはもちろん深刻なヴァンダリズム。しかし、ロスコの落書きも当然その仲間に入るものだ。

そういえば、大英博物館でも歴史に残る衝撃的なヴァンダリズムがあったことを、この博物館のグレートコートの開放的な空間に入って思い出した。くポートランドの壺とである。

これは西暦25年頃に古代ローマで作られたカメオ・ガラスの傑作。あのウェッジウッドの陶器に大きな影響を与えたことはよく知られたことだろう。ところが1845年2月、閉館間際に、酩酊した男がこれを傍らにあった石の彫刻で一瞬のうちに粉々にしてしまったのだ。

その後、この壺は1989年に3度目の修復によってほぼ完全に修復され、大英博物館の古代ローマのギャラリーに展示されている。近づいて細部をよく見ると、やはり修復の跡がいくらかかえる。しかしガラスがこれほどまでに完璧に修復されたのは奇跡に近いのではないだろうか。

ともあれこの修復技術をもってすれば、ロスコの落書きもすぐに修復されるだろう。もう一つのお目当ての大英博物館では、そんなことを考えながらくポートランドの壺とと対面したのだった。

「市民の愛蔵彫刻展—魅せます私のコレクション」を総括する



＜出席者＞

（写真左から 敬称略、）

奥井登代

國松明日香（彫刻家）

久本由美子

大西美智子（コレクター）

猪股岩生

司会 大内 和

友の会の初の展覧会「市民の愛蔵彫刻展」は昨年8月29日から5日間、本郷新記念札幌彫刻美術館で開催、延べ570人を超す来館者を数えるなど予期以上の成果を収めた。企画から作品集め、会場のレイアウトなど同展に関わりのあったメンバーに企画展を総括してもらった。

—友の会として公設の美術館を会場に初めて試みた彫刻展。オープンまでにさまざまな不安、課題があった。どのようにして展覧会の実現にこぎつけたのか。

奥井 とにかく勝手がわからず、大変なことになるのかと不安な気持ちでスタートした。でも、多くの方から良かったとの声をいただき、想像以上の成果をあげられたかと。

國松 美術愛好家にしてみると、普段見られない作品を見られるということで好奇心や興味がそそられる展覧会だったと思う。もっとも、コレクターが買った作品なのだから、買われるだけの価値のある作品が展示されたわけで、それだけでもレベルの高い展覧会になったと言えたのではないかと。

—この展覧会では作品の所蔵者を明らかにしなかったが、大西さんは出品したコレクターの一人。この展覧会に出品した思いを。

大西 私はこれまで手のひらサイズの彫刻を中心に集めて来たので、あまり大きな作品はなかったが、皆さんに見てもらえるというのはとても嬉しかった。できれば、直接、作品に触ってもらいたいくらいで。

—所蔵者探しから、出品作品の選定、作品の配置などさまざまな苦労があったが、具体的に。

奥井 一番心配したのはどのくらい作品が集まるかという不安だった。それがいざふたを開けると150点を超えるほどの候補作品が集まった。大西さんのように一人で何十点も快く出品したコレクターもいた。

久本 たくさん集まらなかったらという不安から、彫刻を作るにあたってのデッサンなども壁に展示することを考えた。その意味では思った以上に良い方向に進んだ。

猪股 コレクターには自分だけで楽しむよりも、ほかの人に見てもらいたいという心理があるのではないだろうか。声をかけた人は快く応じてくれた。

—今回は心配した割には作品がたくさん集まり、逆に集まった候補作品を絞らなければならなかった。

國松 予想以上に作品がたくさん集まったが、やはり玉石混淆は避けた方が良いということ。展覧会の内容を考えたうえで、例えば巨匠の作品、道内作家の作品、さらには若手作家のものなどと分けをしたが、それが自ずと部屋割りにつながって行き、落とさざる

を得ない作品が出てきた。これは展覧会では必要なことで、展覧会の中味が問われることでもある。

奥井 会場のレイアウトについては國松先生にアドバイスをもらい、作品の傾向などから配置を決め、さらに会場で実際に作品を置いてみて入れ替えたりしたものもある。これには美術館の学芸員にも相談に入ってもらい、いろいろ専門的な意見を聞き、日ごろの学芸員の苦労もわかった。

猪股 作品の傾向で分けたのでとても見やすく、良かったと思う。会場でそんな声も聞いた。

—展覧会を開催するにあたって資金確保の問題は大きかったのではないか。

久本 むろん、友の会の財政事情ではなかなか困難な事業で、結果的には太陽地域づくり財団の助成金が大きな力になった。当初は助成金の申請をしたものの、OKになるかどうかかわからず、業者に見積もりをしてもらったところかなりの予算が必要になることが判明した。そこで寄付金を募ることにしたが、どのくらいかかるかわからないので、目標額のない寄付金募集になってしまった。でも、予想以上に集まり、感謝している。

奥井 実際のところ、一番経費の掛かるのは作品の運送費。美術品の運送を専門にしている業者に運んでもらうとかなりの額になることがわかった。結果的には自分たちの力でやったほか、出品者に直接運んでもらうなど協力してもらい、この経費の問題はクリアできた。でも、車の運転にはいつも以上に緊張した。

久本 作品に保険をかけなければならないので、その辺の苦労もあった。

奥井 普段あまり縁のない分野のことで、業者を探すのが大変だった。でも、まったく事故がなく終わったのでほっとした。

—会期が5日間と短かったことへの声もあった。

大西 会期が短くて、勤めのある人は見に行くチャンスがなかったという話も聞いた。もう少し会期がほしかった。

奥井 PR面ではチラシを8000枚作って各ギャラリーなどに置いたが、出品されている彫刻の作家が自分の作品が出品されているのを知らなかったという話もあった。会期とPRの方法はなかなか難しい。

—いずれにしろ、初めての試みながら、570人超の来場者は大成功だったと自負してもいいと思う。仮に次回があるとして、今後への課題と展望を…。

奥井 いろいろ勉強させてもらった。今回はコレクターが所持している作品を展示するという形だったが、展示ばかりでなく、目録を作るなど展開によっては作者との著作権の問題が出てくるのが分かった。この分野のことももっと勉強しなければならない。

國松 次回があるとすれば、作品の集め方が難しいと思う。今回と同じやり方では意味がないので、展覧会の企画の立て方が大切になると思う。

大西 私が彫刻を集めだしたのは芸森にある作家の作品を集めようと思って始めたのだが、それと同様にグループで集める、道内作家だけ、若手作家だけというのも面白いと思う。

猪股 今回はあくまでも市民レベルの目で考えた展覧会で、公立の美術館がやるものと同じものをやることはない。我々の色をどう出すかを考えることが重要になる。

國松 友の会が毎年作っているDVD(視聴覚教材)で取り上げたテーマの中から、作家の技法的な展開などに的を当てた展覧会などは考えられないか。

猪股 今回、公的美術館でこれだけのことができたのは大きな形になったと思う。いろいろ出てきた問題点をクリアすれば、メンバーはたくさんいるので公的などころでできないものを我々が狙ってみるとか、それが見つけられればいいので、焦ってやることはないと思う。

(2012年11月27日、札幌エルプラザ。文責・大内)

友の会ニュース

好天に恵まれて

秋のバスツアー

美術館・庭園を巡る

友の会恒例の秋のバスツアーが行われ、9月21日から一泊二日で富良野、十勝・清水の美術館、庭園などをめぐり、芸術の秋



を楽しんだ。

初日は上富良野にある日本画家・後藤純男美術館、さらに美瑛町の新星館(須田剋太・島岡辰三美術館)を訪れた。新星館では司馬遼太郎の「街道をゆく」の挿絵を描いた須田の油絵、書画、益子焼の陶芸家・島岡の陶芸作品を鑑賞した。その後、近年、多数の観光客が訪れるようになった美瑛町の青い池(ブルーリバー)を訪ね、幻想的な風景を堪能した。宿泊は白金温泉の四季の森パークヒルズ。

翌22日は十勝・清水町の十勝千年の森で開催中の北海道ガーデンショーを見学、世界的なガー

デンデザイナーが作る見事な草花の癒しの庭を満喫した=写真=。雄大な日高山脈を眺めながらスケールの大きな自然に触れる充実の旅を味わった。

「市民の愛蔵彫刻展」

図録作成して出品者へ

友の会主催の「市民の愛蔵彫刻展」の全出品作品を収録した図録が出来上がった=写真=。

企画展開催の記録を残すためと出品者への記念として作成した。



A4判の大きさに20ページ。企画展のPRチラシ、会期中のスナップ写真、北海道新聞に掲載された記事のほか会場に展示された全作品の写真と作品名、作者、サイズ、所蔵者が寄せたコメントなどを収録している。

図録はすでに出品者など関係者に配布された。

メディアへ出演相次ぐ

橋本会長、高橋淑子会員

友の会の彫刻企画展がきっかけとなって昨年秋、橋本信夫会長と高橋淑子会員が相次いでマスメディアに出演、友の会の活動ぶりをじっくり視聴者に語りかけ、PR

に貢献した。

橋本会長は石川啄木像の清掃を取材に来たのが縁でインターネット・ユーチューブの「札幌人物図鑑」に出演、福津京キャスターと対談、友の会活動について日ごろの持論を展開した=写真=。



会長は野外彫刻の管理の在り方、市民文化としての彫刻保全の必要性、さらに、現在進めている彫刻地図作りから将来の「札幌デジタル彫刻美術館構想」への夢を語った。

一方、高橋さんはSTVラジオの「TONちゃんのほっかいどう大好き」(毎週土曜午前8:30-45)に10月28日から11月4、11日の3回出演、企画展「市民の愛蔵彫刻展」の開催経緯のほか友の会の日ごろの活動内容についてアートナビゲーターとしての経験も織り込んで熱心に話した。

出演のきっかけは同番組の橋本登代子キャスターが愛蔵彫刻展を取材に来たことからで、いずれも友の会の活動が社会の目に留まるようになった結果と言えそう。

博物館ボランティアの集い 2012

博物館運営の在り方テーマに

友の会から6人が参加

北海道大学で10月29日に開かれた第9回博物館ボランティアの集いに友の会から橋本信夫会長ら6人が参加した。全国から100人以上の参加者が集まり、清国祐二・香川大教授の基調講演のほか、3分科会に分かれて事例報告と討論などがあつた。東郷青児美術館の五十嵐卓学芸課長が行った東京都内の小学生を対象に休館日に行った鑑賞会についての分科会に参加した高橋淑子会員は「美術館・博物館の未来に必要なボランティアとして友の会も力を発揮することの大切さを感じた」という。

竹津さんに札幌芸術賞

文化奨励賞は川上さん

友の会会員の竹津宜男さんが本年度の札幌市芸術賞を、同じく川上りえさんが文化奨励賞を受賞した。竹津さんは音楽団体活動に関わり、北海道国際音楽交流会(ハイメス)の設立、発展に寄与したことが認められた。川上さんはモニュメント制作や展覧会への出品、海外への作品発表など彫刻家としての活動が評価された。

カップもすきっきり

定山溪温泉で彫刻清掃

今春から始めたリハビリ患者の

機能回復訓練とタイアップした彫刻清掃の2回目として10月4日、定山溪温泉街のカップ軍団の清掃を病院関係者らと行った。

定山溪温泉は漫画家のおおば比呂司さん(1921-88年)の助言で1966年から河童をモチーフにした街づくりを始め、現在では20体以上の可愛い河童が点在して



観光客の目を慰めているが、これまで清掃されたことがなく、河童たちはせつかくのブロンズの輝きを失ってしまった。そんな河童たちを参加者たちが雑巾や歯ブラシで隅々まで丁寧に磨き、ワックスをかけると見違えるように輝きを取り戻した。作業の過程で破損部分が見つかった像もあり、札幌市を通じて修復を要請した。

石川啄木像清掃で締めくくる
今年の彫刻清掃作業

今年度の野外彫刻清掃の最後を締めくくる大通公園の清掃作業が10月30日に行われ、石川啄木



像などの彫刻が汚れを落としてさ

っぱりしたたたずまいとなった。

この日はどんよりした肌寒い日だったが、会員7人が集まり、佐藤美保子会員が啄木像前で解説、作者の坂坦道にも触れ、啄木の詩を読み上げた=写真=。

このあと、橋本会長がブロンズ彫刻の清掃のコツなどを説明、会員たちはバケツで水を運び、手にしたスポンジやブラシで丹念に汚れを洗い流した。さらに、ブロンズにワックスをかけ、劣化を防ぐ手当もほどこした。

ついで、市役所前にある山内壯夫の《希望》の解説を高橋淑子会員が行った。

彫刻基礎学習会がスタート
橋本会長を講師に

日ごろ彫刻の解説や清掃作業などを行う友



の会の会員らしく彫刻に対する知識を深めようという彫刻基礎学習会がスタートした。勉強会は橋本信夫会長を講師に11月19日に第1回を行った=写真=。彫刻の材質、制作過程などを学習する予定。日程な詳細は長峯会員まで。

お知らせ！！

2013年友の会新年会

1月26日 11:00～

ホテルポールスター札幌

中央区北4西6 ☎241-9111

会費：4500円

事務局日誌

▼10月4日＝定山溪温泉でカップの像清掃▼11日＝定例役員会(エルプラザ)会報42号編集企画▼26日＝市民愛蔵彫刻展終了あいさつで彫刻美術館訪問▼30日＝大通公園で石川啄木像の清掃▼11月8日＝定例役員会(エルプラザ)野外彫刻の資料整理と解説資料作成準備など▼19日＝彫刻基礎学習会スタート(エルプラザ)橋本会長を講師に第1回を開く▼同日＝市民愛蔵彫刻展図録作成▼12月13日＝定例役員会

編集後記

▼道内各市町村にある野外彫刻を写真に収めた仲野三郎会員の彫刻写真をパソコンへ取り込む作業を数人の会員で進めている。▼ざっと2000枚の写真を一枚ずつデジタル写真化するものだが、1点の作品に遠景、近景、アップ、さらに作品の由来などを書いた銘板なども写しており、そのきめ細かさや全道を駆け巡った努力とエネルギーに感嘆している。橋本会長が構想する「デジタル彫刻美術館」への足掛かりになるものと確信して作業に力を入れているところだ。

(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.42

2013年1月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」42号 目次

自作自選 12 《ウスレユク記憶ノタメノ石積》 渡辺行夫	表紙
作者の言葉	2
宮の森の四季 12 「お世話になりました」 樋泉綾子	2
風見鶏 「ロスコとくポートルランドの壺」と 佐藤友哉	3
座談会 「市民の愛蔵彫刻展を総括する」	4-5
友の会ニュース	6-7
秋のバスツアー、市民愛蔵展図録作成、メディアへの出演相次ぐ 博物館ボランティア2012へ参加、定山溪のカップ清掃ほか	
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■コレクション展「石と木のかたち」

開催中—4月14日(日)まで

本郷新の石彫、木彫とともに関連するデッサンなども展示

◇学芸員によるギャラリートーク

1月26日(土)、3月9日(土)、4月6日(土) 各回14:00から

同時開催

「In My Room」 札幌を拠点にする若手彫刻家5人の個展

吉成翔子、向川未桜、引山絵里、池田祐太、板本伸雄

記念館

■本郷新の部屋

会期：開催中～来年4月14日(日)まで

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>